

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2275300701		
法人名	有限会社 ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホームすきっぷ藤枝		
所在地 (電話番号)	藤枝市稲川1丁目1-12		(電話) 054-647-5580
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年4月16日		

【情報提供票より】(21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	3 人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,800 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青島北クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎えるホームは、藤枝市の中心部を流れる瀬戸川の東側に位置し、すぐ近くに国道1号線が通っている。市役所、消防署、法務局などの公的な施設が周りにあり、且つ緑が多い閑静な住宅街の中で、恵まれた環境の中にある。建物内部は、明るくゆとりのある造りで、広い食堂と居間のスペースを利用して、ボランティアの訪問も多く、近隣住民を招待することもある。開設以来、地域密着型施設としての使命を担い「地域に無くてはならない施設になる」ことを理念に掲げて、管理者と職員が一丸となってサービスの向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が2回目の外部評価である。明らかになった課題について全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。地域との関わりを大切にし、行政とも連携を取りながら、利用者の立場に立った支援を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を十分に理解し、全職員で取り組んでいる。評価を、自分たちのサービスを振り返りる良い機会として捉え、運営推進会議の議題にも取り上げ、サービス向上につなげていこうとする意欲がみられる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月に1度定期的に開催している。町内会長をはじめ民生委員、市職員、家族代表などが参加し、活発な意見交換がされている。町内会長の参加により、地域との連携も取りやすくなっており、地域行事の情報や協力を得られるように働きかけている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>話し易い関係作りを心がけ、家族が事業所を訪問した際に、家族の声を聞き取り、意見や要望に対して速やかな対応を心がけている。家族アンケートの結果からも、サービスに対し満足されていることが伺える。今後、家族会など利用者家族同士の交流の場を作っていくことにも取り組まれない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「地域に無くてはならないホーム」として、近隣の住民に気軽に立ち寄ってもらったり、高齢者の相談に応じられるような事業所を目指している。自治会に加入して地域活動に参加したり、積極的に地域との連携に努めている。毎日の散歩の時には声を掛け合う関係ができており、ボランティアの訪問も多く、近くの特別支援学校の生徒が気軽に訪れるなど、地域の中で自然な交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「この地域に無くてはならぬ施設となる様心がけます」を掲げ、地域密着型サービスとしての役割を果たしていく姿勢を示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや申し送りの中で理念に触れ、確認し合っている。利用者の尊厳を大切にし、楽しく生活できる場となるように、また、家族や地域の人が気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の防災訓練やお祭り、新年の行事等にも積極的に参加している。隣組にも加わり、回覧板のやり取りを行いながら情報を得て、地域との付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員が評価の意義を十分理解しており、全員で取り組むことにより、前回の評価を振り返り、改善に向けての良い機会として捉えている。運営推進会議の議題にも取り上げ、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、市福祉課職員、家族代表をメンバーとし、3ヶ月に1度定期的で開催している。活動状況を報告したり、課題点を議題として提示し、活発な意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の新任職員、担当職員の見学を受け入れたり、必要に応じて担当と連絡をとり、運営上のアドバイスを受けている。サービスの質の向上に向け、市との連携をとっていくことの必要性を理解し、関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「すきっぷ便り」を発行し、近況報告の他、利用者一人ひとりに個別の写真とスタッフからの一言を添えて家族に送付している。家族の訪問時や利用料の支払い時には、小遣い帳のコピーを渡し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問し易い雰囲気、何でも言える関係作りを心がけている。家族から出された意見や不満には、速やかに対応し、玄関には苦情箱を設置している。	○	今後は、利用者家族同士が意見交換ができるような、家族会や交流会などの機会を作っていくことにも取り組まれない。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者の交代はなく、職員の離職も少ない。職員の交代による影響を十分理解しており、その際も引き継ぎの期間を十分にとるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性は十分に理解しているが、体制的な問題もあり、外部研修の機会は少ない。職場内では、毎月のミーティングの中で、ミニ勉強会を企画し、内部研修や学習の機会を作っている。	○	限られた職員体制の中で難しい面もあるが、職員が経験年数や習熟度に応じた外部研修へ参加できるように、年間を通じた研修計画作成に取り組み、研修の機会を確保されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、情報を得ているが、近隣の事業所との勉強会や相互訪問等の交流は行われていない。	○	職員同士の交流は、サービスの質の向上に効果的であり、相互訪問等に少しずつ取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでに、事業所の見学や、職員が自宅を訪問して、入居希望者や家族と面談し、状態を見極め馴染めるように工夫している。お試し入所も勧めており、利用者が落ち着いて生活できるまで、希望があれば、家族が宿泊することも可能とするなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や片付け、買い物や園芸作業などを職員と利用者が一緒に行い、喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築いている。また、利用者の生活歴を把握し、それぞれが得意とすることや興味のあることで力を発揮していただき、職員は、そこから学ぶことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の思いや希望を大切に考え、その把握に努めている。入居時にはセンター方式を利用しながら、これまでの生活歴を把握し、入居後は、利用者の思いや家族から得た情報を「伝達ノート」に記録し、職員間で共有する仕組みを作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの利用者に対し担当を決め、毎月のミーティング時に、ケアカンファレンスを行い、家族の意見を聞いたり、医師と相談しながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にケアカンファレンスを行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。状態に変化があった場合には、随時見直しを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じて、受診や墓参の付き添い、理美容院への外出支援を行っている。また、遠方から訪問される家族や、入所時には、希望により家族の宿泊も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は原則家族に付き添ってもらうことになっているが、緊急時や家族の状態に合わせ、受診支援を行っている。2週間に1度、ホーム提携医の往診があり、希望者は受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、看護師がいないためターミナルケアは考えていないが、人生最後の生活の場として、いかに快適に楽しく過ごしてもらえるかという考えのもと、家族や医師と相談し、連絡を密にとりながら、利用者・家族の希望に添った支援にあたっている。	○	家族や医療機関と連携し、ターミナルケアを受け入れていく体制作りについても検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に考え、プライバシーを損ねることのないよう対応に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりの利用者の状態を把握し、それぞれが自分のペースで生活できるように支援している。入浴後、自室でテレビを見るのを日課にしている人や、草花の手入れを楽しんでいる人の姿が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって、食事が如何に楽しみなものであるか理解した上で、毎日の買い物や食事の支度を、利用者や職員と一緒にしている。食卓をみんなで囲み、にぎやかな大家族のように、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、ほぼ全利用者が入浴している。時間は、昼食後から夕食までの間になっているが、それぞれの希望やタイミングを見計らって楽しんでもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者の生活歴を把握し、それを活かした役割が自然にできている。食事の支度や片付け、園芸や買い物など、できることを楽しみながらやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の生活の中で、買い物や、散歩など外出の機会は多い。職員の見守りの下、一人で散歩に出かける方がいたり、定期的に訪れるボランティアとのドライブも楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は開錠している。利用者の状態を把握し、利用者は自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1度ホーム独自で、災害を想定した訓練を行っている。夜間の火災や、地震などの災害、出火場所も様々な場所を想定し、実施している。また、地域の防災訓練にも参加し、協力を依頼したり、地域に対し、災害時のホームの開放や住民の受け入れなどを申し出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い野菜中心の食事を心がけている。それぞれの利用者の状態を把握し、おかゆや刻み食などの対応も行っている。水分・食事摂取量のチェック表を作り、特に水分確保に注意し、定期的に水分補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ゆったりとした明るく開放的な造りで、季節感のある装飾や、ボランティアの方が描いた近隣風景の絵などが飾られている。畳のコーナーやソファ、ベンチなどを配置し、利用者はそれぞれ好みの場所で自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、利用者が使い慣れた物品を持ち込んでもらうよう説明しており、それぞれの居室には使い慣れた家具やテレビなどを配置している。利用者によっては仏壇を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせる居室作りを支援している。		